

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2021年5月1日発行(毎月一回発行)第761号

May
2021 5

● 出会い・本・人

読人書——人を読む書 松谷暉介

● 特集「日本キリスト教史」を学ぶには

この三冊！ 村松 晋

● 本・批評と紹介

F・シュライアマハー著／安酸敏貞訳

キリスト教信仰 川島堅三

荒井洋一、出村和彦、金子晴男、田子多津子訳

アウグウスティヌス著作集第19／II

詩編注解(4) 加藤 武

日本キリスト教会著

CATS 日本キリスト教会大信仰問答 伊藤 悟

松谷暉介編訳

香港の民主化運動と信教の自由 山口陽一

H・キェンク著／福田誠二訳

キリスト教 阿部仲麻呂

Sola (ソラ) 作／いししくみこ絵

起き上がり小法師 角田芳子

西岡義行責任編集

平和をつくり出す神の宣教 藤本 満

「本のひろば」バックナンバー表

近刊情報

書店案内

〔増補改訂版〕

パウロの生涯と神学

朴憲郁 著

伝道と神学のパイオニア



異邦人への使徒として召されたパウロは、ユダヤ神学を変革し、キリスト教の最初の神学者となる。初期キリスト教の生みの苦しみ、激動の時代を生きたパウロの劇的な生涯と、パウロ神学の形成過程を丹念に描く。最新の研究成果を反映した増補版。

● A5判・並製・284頁・定価2,750円

キリスト教の死生観

上田光正 著



キリスト教はなぜ、人間の命を特別なものと見なすのか。人間に固有な死の意味とは何か。多神教や唯物論的な見方では決して見出しえない、神中心の視点に立つ幸福論を提示し、真に「幸福な」死と生に招く。

● 四六判・並製・322頁・定価2,750円

加藤常昭説教全集32

コリントの信徒への手紙一 講話

第IV期第5回配本

加藤常昭 著



国際都市であったコリントの教会が直面したさまざまな課題に、「愛」と「良心」に基づく教会形成の指針を示したパウロのメッセージを、平易な言葉で読み解く。FEBCでの放送の書籍化。

● 四六判・上製・454頁・定価4,290円

『加藤常昭説教全集』第IV期(全7巻)

【既刊のご案内】

- 第31巻 使徒言行録講話 (定価4,290円)
- 第34巻 エフェソの信徒への手紙 (定価2,970円)
- 第35巻 新約聖書書簡の説教1 (定価4,070円)
- 第36巻 新約聖書書簡の説教2 (定価3,630円)

【続刊のご案内】(2か月に1冊刊行予定)

- 第33巻 コリントの信徒への手紙二講話(6月刊行予定)
- 第37巻 旧約聖書・福音書の説教(8月刊行予定)

4月の新刊 (価格表示は税込)

イエス時代の
多彩なユダヤ文学



イエス・キリスト時代のユダヤ民族史VI

E・シューラー 著 高井啓介／飯郷友康 訳

七十人訳聖書、ユダヤ人ヘレニストによる歴史書・詩文・哲学書などのギリシア語文学や、死海文書・魔術書・聖書ミドラシユなどのセム語文学を概観する。豊かな色彩を帯びたヘレニズム期ユダヤ教の諸相を学ぶ上で不可欠な一巻。

● A5判・上製・474頁・定価11,000円

出会い

人 本



読人書——人を読む書

松谷曄介

私は本を読むのが大の苦手だ。とにかく集中力がなく、読むのが遅い。全部読み終わる前に、他の本を読み始めてしまう。さらに悪いことに、すぐに読みもしない本を買い貯めて、置き場に困ってしまう。

私は本を読むより、人と話すほうが好きなタイプだ。大学生時代、よく図書館にいたため、友人たちは私がいつも本を読んではかりいと思うていたらしいが、単に話し相手になる友人が来ないか、空調が効いた図書館で待っていただけだ。

だから、私は全くもって「読書人」などではない。

しかし気が付くと、そんな私を書きようになつていった。単著に『日本の中国古領統治と宗教政策——日中キリスト者の協力と抵抗』(明石書店、二〇二〇年)、共著に『増補改訂版 はじめての中国キリスト教史』(かんよう出版、二〇二二年)、訳著に『王道——21世紀中国の教会と市民社会のための神学』(新教出版社、二〇二二年)、『香港の民主化運動と信教の自由』

(教文館、二〇二二年)、他に論文がいくつかある。

いずれも中国大陸や香港のキリスト教(一部、日本も含む)に関するものだが、これらは本を多く読んだから書けたものというわけではなく、むしろ、中国や香港の現地の空気を吸い、そこに生きる一人ひとりのキリスト者と出会い、語り合い、折り合うことを通して、彼らのことを書いたり翻訳したりしたのばかりだ。もちろん、本を書くために一定の量の他の本を読まなければならないが、私が書いた本は、「本を読む」ことよりも、「人を読む」ことを通して書いた書物、「読人書」と言える。自分で「読人書」を出すようになり、今さらながら改めて気づいたことがある。それは、今まで苦手に思っていたさまざまな書物も、やはり同じように「読人書」なのだ。「読書」とは、単に書物の文字を読むことではなく、その書物の中あるいは背後にいる「人を読む」ことなのだ。

(まっただに・ようすけ)金城学院大学宗教主事・准教授／日本基督教団教務教師)

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3561-5549 (出版部直通)《呈・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は(e-shop 教文館) <http://shop-kyobunkwan.com/> まで!



「日本キリスト教史」を学ぶには ▼この三冊！

村松 晋（むらまつ・すすむ：聖学院大学人文学部日本文化学科教授）

筆者に与えられた課題は、「日本キリスト教史」を学ぶ上で手引きとなる三冊を紹介することである。ただ、キリシタン史研究に遡る膨大な蓄積から選定することは難しいため、ここでは筆者が専攻し、研究史を跡付け得る日本プロテスタント史を中心に筆を進めたい。

大濱徹也『明治キリスト教会史の研究』

昨年暮れに上梓した拙著『近代日本のキリスト者——その歴史的位相』（聖

学院大学出版会、二〇二〇年）でも指摘したように、日本プロテスタント史研究は、その先蹤者・隅谷三喜男氏の課題意識に促され、「近代精神の淵源」たるプロテスタンティズムの思想的・社会的影響力を長らく問うてきた。如上の志向はしかし、西欧近代批判の浸透に伴い相対化され、今や研究の主流は、教会やキリスト者の「戦争協力」ならびにその「天皇制」や植民地支配との親和性を追及する論考に移行した感がある。

ただし前者の視座は、理念としての近代に引きずられるあまり、時代を生きたキリスト者の把握がやや観念的であり、また後者の場合、論者の依拠する価値観やその解釈枠組みが前面に押し出されがちなため、いささか外在的な「批判」に陥っている憾みがある。

こうした研究状況を乗り越えるには、近代日本におけるキリスト者とその信仰・思想を、時代社会をふまえて内在的に解き明かし、その具体的な相貌を積み重ねていくことで、近代日本という歴史的な場に根ざしたキリスト者の実態を明らかにすることが必要である。如上の基礎作業を遂行する上で、大濱徹也氏の『明治キリスト教会史の研究』（吉川弘文館、一九七九年）は、まず参照すべき文献である。氏は本書において、西上州、滋賀県、北海道空知という特色ある地域を中心に、明治前期におけるプロテスタント教会の形成過

程と構造を分析した。そのまなざしは、時代の過渡期に輩出した種々の結社や民衆宗教と同じ地平でキリスト教を検証し、生活の場における教会とキリスト者の存在形態を凝視する点で、本書以前にしばしば見られた歴史叙述、たとえば明治国家をめぐる「受難」と「抵抗」の歩みとして描かれる「キリスト教史」や、あるべき「信仰」の立場を設定しそこからの距離を測ってキリスト者の「限界」を指摘するような論調とは一線を画していた。

本書で大濱氏が力説するのは、明治初期プロテスタント教会の基層に、平信徒が「家」を場として形成した聖書集会在存在するという事実である。その道統を継ぐものとして内村鑑三のいわゆる「無教会」を評価する氏は、後にこの視点を深め、教会設立の母胎となった平信徒集会在をキリシタン時代のコンフラリアに重ねて問い、無教会集

会を蓮如以来の寄合や講組の系譜に位置づけた（大濱「キリスト教会と信徒組織」、『講座日本の民俗宗教』5、弘文堂、一九八〇年、同「日本のキリスト教会——その構造と特質」、『内村鑑三研究』二三号、キリスト教図書出版社、一九八六年五月）。こうした見方は、ヴェーバーやトレルチの類型論とは別個の視座に基づく「無教会」論を可能とするのみならず、一九六〇年代に遡及するキリスト教の土着化論に接続させ得る点でも興味深い。

なお大濱氏の教会史研究は、他に『鳥居坂教会百年史』（日本基督教団鳥居坂教会、一九八七年）があり、また氏と視点や着想が近い作品として、大江満『宣教師ウイリアムズの伝道と生涯——幕末・明治米国聖公会の軌跡』（刀水書房、二〇〇〇年）、森岡清美『明治キリスト教会形成の社会史』（東京大学出版会、二〇〇五年）、山下須美

礼『東方正教の地域的展開と移行期の間人画像——北東北における時代変容意識』（清文堂、二〇一四年）等を挙げることができ。併せて参照されたい。

鈴木範久監修『日本キリスト教歴史人名事典』

ところで「日本キリスト教史」を構想する場合、まず、統計上に表れた「信徒」や「教会」を対象とする描き方がある。これを狭義の「日本キリスト教史」と呼ぶことができよう。一方、「日本のキリスト教徒は、現在、信徒数の上では国民総人口の一パーセントにも達しないほどの少数であるが、思想界・教育界・宗教界に与えたその影響には、多大なものがある」（高橋昌郎『明治のキリスト教』吉川弘文館、二〇〇三年）として、「日本キリスト教史」を広義に捉え、キリスト教が諸領域に及ぼした潜在的な感化の様を跡付けてい

く途もある。

この点、鈴木範久氏が監修した『日本キリスト教歴史人名事典』（教文館、二〇二〇年）は、狭義の「日本キリスト教史」のみならず、広義のそれを企図する上でも有益である。というのも本書は項目を「キリスト者」に限定せず、何らかの形でキリスト教と交錯しその影響をこうむった人々を広く収めているからである。統計上は「信徒」でない彼らについての記述をひもどくと、キリスト教との邂逅によりもたらされた刻印が、各々の内で消え失せず、当人を規矩する何ものかとして息づいていることがうかがえる。彼らはその魂に刻み込まれたキリスト教体験に促されたり、着想・希望を与えられたりして、抑圧のかつ排外的な文化風土を改善すべく、それぞれの持ち場において努力した。そうした「非キリスト者」による実践をも本書は伝えている。

無論、「信仰告白」を決断し、一つの信仰共同体に主体的な参画を続けた「信徒」の歩みは重視されるべきであり、彼らの差は掘り下げて問われねばならない。しかし「日本キリスト教史」の間口を拡げ、キリスト教が周囲に築いた磁場にも目を注ぐ時、その叙述は隣接諸分野と相渉り、一層の光彩を發揮すると思われる。如上の構想を具現化する上で、本書は無数の手がかりを与えてくれるに相違ない。

関根清三『内村鑑三 その聖書読解と危機の時代』

最後に評伝の領域から一冊を紹介したい。関根清三氏による『内村鑑三 その聖書読解と危機の時代』（筑摩書房、二〇一九年）である。筆者が手掛けた書評（『内村鑑三研究』五三三号、教文館、二〇二〇年四月）でも指摘したように、本書はまず、蓄積の厚い内

村鑑三研究に新知見を加えた点で瞠目に値する。戦争をめぐる議論に限っても、たとえば内村の「日清戦争の義戦論」に向けられてきた批判に対し、創造的な揺さぶりをかけたこと、また、「イエスは、そもそも非戦論者であったであろうか」と問い進むなかで、内村の自覚の深化を推し量ったこと、そして「内村の戦争論の到達点」が、「戦争を起さぬための事前の永い努力」として、「聖書の研究を通じた社会の精神の変革」への志向にあった点を明らかにしたこと等、研究史への貢献は大きい。さらには『十字架教』を奉じた内村が、一方で、「現代神学に通ずる非神話化の醒めた視点」を併せ持っていた可能性の指摘等、キリスト者・内村を問い直す上でも興味深い言及がある。

方法の面でも本書は新しい。内村は「聖書の読解に基づいて、現実の問題

と斬り結ぶところに」「真骨頂がある」と見る関根氏は、内村の「聖書の読解」の具体相を時代の中で詳らかにすることに傾注した。思うにこのアプローチは、キリスト者ことにプロテスタントの思想家を読み解く際に、おしなべて応用されるべきである。というのも聖書と主体的に向き合う者は、己をとりまく現実を、聖書に啓かれた眼

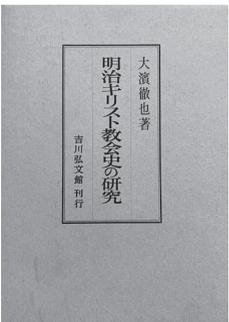
で問い直し、聖書に基づく意味づけを経て取り込み、その上で然るべき言動を紡ぎ出しているはずだからである。したがってキリスト者の「社会認識」や「政治実践」を考察する場合には、時代への目配りに加え、当人が聖書のいかなる箇所を、いつ、どのように読んだかを検証することも不可欠と言わねばならない。本書の方法に注目を促

すゆえんである。

以上、筆者の関心もふまえ三冊を選んだ。日本プロテスタント史研究は、活況を呈する近代仏教史・神道史研究を前に、一見「地味」にも映ずるが、豊かな創造性を秘めている。拙文が研究深化の一契機ともなり得れば幸いである。

『明治キリスト教会史の研究』

大濱徹也：著
吉川弘文館
1979年
A5判 420 + 25 頁
6380円（税込）



『日本キリスト教歴史人名事典』

鈴木範久：監修
日本キリスト教歴史大事典編集委員会：編
教文館
2020年
B5判 982頁
49500円（税込）



『内村鑑三』 その聖書読解と危機の時代

関根清三：著
筑摩書房
2019年
四六判 382頁
1980円（税込）



原文を正しく伝える
古典的名著の初の全訳

〈評者〉川島堅二



キリスト教古典叢書
キリスト教信仰
F・シュライアマハー著
安酸敏眞訳



本書は、フリードリヒ・シュライアマハーの代表的著作『キリスト教信仰（信仰論）』の本邦初となる全訳である。シュライアマハーは信仰の本質を、初期の『宗教論』においては「宇宙の直観と感情」、後期の本書では「絶対依存の感情」と定義し、知にも行為にも還元されない宗教独自の内実を、神学用語を用いることなく示したことにより、キリスト神学の枠を超えて広く哲学や宗教学に影響を及ぼした。また同時代の論敵でもあった哲学者シェリングやヘーゲルが、キリスト神学から出発しながら教会的実践からは距離をおいて自らの思想を発展させたのに対し、シュライアマハーは終生、プロテスタント教会の指導者としての責任を担い続けた。本書の『福音主義教会の根本命題との関連によって叙述されたキリスト教信仰』という題名も、そうした彼の独特な立ち位置を示す。「絶対依存の

感情」という一般用語で定義した信仰の内実を、古代・中世・近世のキリスト教教義との関連で弁証したのが本書だからである。

訳文は原書の「難渋な文体」に誠実に取り組んでいる。たとえばキリスト教的自己意識を独特な造語で分析する部分（序論）は、従来の翻訳では繊細なニュアンスを切り捨てた意訳がなされてきた。一例をあげると三枝義夫訳『信仰論序説』で「自己の非措定」と（おそらくは本書の訳者によって「イギリス英語訳」といわれている翻訳にしたがって）訳されている部分が、本書では「自己自身をそのように定立しなかつたこと」（四〇頁）と、完了形の分詞で書かれている原文のニュアンスを正確に伝えている。

要な内容を構成している。その中には、アタナシオス信条やニカイア・コンスタンチノポリス信条、ルターの『大教理問答』やカルヴァンの『キリスト教綱要』など著名なものもあるが、初見（少なくとも評者には）のものも数多くある。「イギリス英語訳」ではこれらを古典語のまま引き写しているが、本書ではすべて忠実に日本語訳されており、その労はいかばかりであったかただただ脱帽である。

二〇世紀前半グスターフ・アウレン『勝利者キリスト』によって「主観型」というレッテルを貼られて以降、シュライアマハーの神学は、贖罪論としては現代神学の背景抜いである（近藤勝彦『贖罪論とその周辺』参照）。そうし

た今日、本書の中心概念であり、従来「救済」「救済者」と訳されてきた語（Erlösung, Erlöser）に「熟慮の上」「終始一貫して」「贖罪」「贖罪者」という訳語を充てた（九七頁）という訳者に強い気概を感じる。キリスト教への関心が、「学問」（知）と「社会実践」（行為）に分裂し、生き生きとした「キリスト教信仰」を伝えるべき教会が存在感をも失っているように思われる現在、本書を熟読する意義は大きい。そのような道を開いてくださった訳者の多大な労心により感謝したい。

（かわしま・けんじ 東北学院大学教授）

（かわしま・けんじ 東北学院大学教授）

原発事故ですべてを失った牧師が語る
コロナ禍を生きる人へのメッセージ



悲しみの過去を手放し
希望の未来へ 「不安の時代」を生きる

佐藤彰

原発事故ですべてを失った佐藤彰牧師。喪失から一歩を踏み出し荒野に道があることを知った経験から、コロナ禍の不安を生きる人々に「必ず道はある」と説く。 四六判・80頁・定価990円

新訳聖書の新しくなった点とは



ここが変わった！
「聖書協会共同訳」

新約編

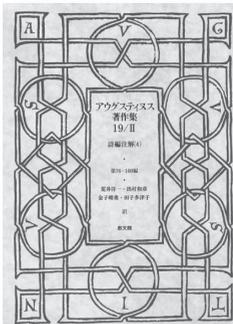
浅野淳博／伊東寿泰
須藤伊知郎／辻学
中野実／廣石望

新訳聖書「聖書協会共同訳」は従来の訳と比べてどう変わったのか。「新共同訳」や同時期刊行の「新改訳2017」と比較しつつ、新しくなった点を31項目にわたって新約学界を牽引する執筆陣が解説。 四六判・128頁・定価1320円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

詩編を愛した教父の
肉声を伝える説教

〈評者〉加藤 武



アウグステイヌス
著作集 第19 / II

詩編注解(4)

アウグステイヌス 著

荒井洋一、出村和彦、金子晴勇、
田子多津子訳



アウグステイヌスは詩編が大好きでした。詩編について、彼はこのように述べています。「この森の中には鹿も住んでいて、森の中に深くはいってゆき、憩い、歩きまわったり、草を喰んだり、ね転んだり、噛みなおしたりしています」(山田晶訳『告白Ⅲ』中公文庫、二〇一四年、一〇一―一頁)。この森とは詩編のことです。

『詩編注解4』は、彼の最大規模の著作 Enarrationes in Psalmos の邦訳四分冊目で、七六編から一〇〇編までの注解ないしは説教を取っています。今回はその中から、詩編七六編と八〇編を取り上げてみましょう。

その1 詩編七六編二節
では、詩編七六編二節を一緒に見てゆきましょう。表札にあたる表題の「エドトン」という語は、『彼らを飛び超えて行く人』のことだといえます。エドトンは言います。

ぎこむ。油かすは公然と街路を流れて去る。……はたして円形劇場での狂気乱舞といえどもこの光景に比較されるべきものだろうか。あの狂喜乱舞は油かすに属し、この光景は油に属する」と対象法を用いて言います。アウグステイヌスはこの「大いなる光景」に目を輝かせて見入っているのです。一つの映像がもう一つの映像を喚起します。これは論理的な類比でなくて、ブルーストの作品の或る箇所を思わせる映像的な類比です。

その3 説教という即興演奏

これらアウグステイヌスの詩編の《注解》の仕方は、大学の講義のように教師がノートを読むにつれて学生が筆記するという形式ではなくて、北アフリカの大都市ヒツポヤカルタゴ、また口バに乗って辺境の地を巡る旅の途中で、

「わたしの声によってわたしは主に向かって叫んだ。そしてわたしの声は神へと向かう」「あなたが神を通して他のものを探し求めないときに、神はあなたへと向かう。……彼らは主へと向かって叫ぶことをやめなかった」(以上一九頁)。ここでは、『叫ぶ』と『主を内へと呼び入れる』と違いがあることに、慧眼な訳者の荒井洋一氏は注目しています(註6参照)。

その2 詩編八〇編一節
次に、詩編八〇編は次のような表題を持っています。「ぶどうの」(「压榨機のために」。ここでは、二つの詩編の主想を見出し、字義通りでなく、「現在働きをなしている教会の神秘として受け取りなさい」(以下一四七頁)と言っています。でも早合点は禁物、『压榨機』と付け加えているのです。その先で言います。「油は濾されて樽の中へと注

伝道のために立ち寄った会堂での《セルモー》、つまりオララルな話であったことに目を向けましょう。ここでは、語る司祭や司教は司教座の椅子に座り、会衆は全員立っています! ときには話が二時間も続いて疲れたり、ときには難解だったりすると、会衆がガヤガヤ騒ぎ出すことがよくありました。すると、「インテンデー(シート、ご注意を!)」という制止の語詞が飛び出します。彼の説教は、あらかじめ下調べをしてワープロで作って印刷しておいた原稿を読むのではなく、前巻(『詩編注解3』七二七頁)で水落健治氏の言う《自由自在な即興》なのです。「そのとき上から与えられる」という信頼にもとづいて。

(かとう・たけし)立教大学名誉教授
(A5判・八一四頁・定価一〇四五〇円(税込)・教文館)



ルター的心を生きる

江藤直純

新刊



ルター的心を生きる

江藤直純 著

●A5判並製 413頁
●定価3,300円(10%税込)

宗教改革者ルターの信仰と神学は500年を経てなお何を語るか。「恵みのみ」「義認」「信仰」「自由」「責任」「奉仕」等を手掛かりに、課題の多い現代日本での私たちの生き方と教会の在り方を真摯に求めてルターに丁寧に聴き、慰めとチャレンジを受け新たな視野を開かれる好著。長年教会と大学に仕えた著者による主として信徒向けに語られた講演などに書き下ろしを加えた20編を収録。

ISBN978-4-86376-086-8

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

問いかける信仰、問われる信仰 何をいかに継承するか

〔評者〕伊藤 悟



CATS
日本キリスト教会
大信問答
大信問答
(ビジュアル版)
日本キリスト教会著



一つの教派・教団が信仰告白や信仰問答を制定するというのは並大抵のことではない。この度上程された『日本キリスト教会大信問答』は一九五八年に起草され、じつに六二年もの歳月をかけての研究、推敲、改訂、協議の結果として、いよいよこの度の刊行となった。心から敬服する。

信仰問答は信仰告白から発出し信仰告白を規定する。信仰問答は、そもそも受洗志願者の準備教育や信徒の訓練のために用いられてきたのであるが、聖書信仰に立ち続けるためのガイドラインとなって信仰者を信仰者たらしめ、そして教会と説教者を聖書(神の言葉)の前に立たせてきた。それゆえ信仰問答は、教会の礼拝や説教、教会の宣教のあり方、信徒の日々の生活に強く影響を与える羅針盤であり航海日誌である。

私たちを取り巻く世界はいま大きく変貌を遂げている。

きた信仰を育て上げていく。それゆえ信仰問答を飾り物にしたり神格化させたりしてはならない。日本キリスト教会が大信問答を公刊したというのは、これによって生きた信仰を育て上げ、その信仰を継承し、これに従って宣教することを、神と人ともに告白(宣言)したことに他ならない。揺れ動く時代のなかで、信仰問答が教会自身を問いかける。本書は、全14章、序説(問答1~11)、第一部信仰篇(問答12~166)、第二部生活篇(問答167~299)の全二九九の問いと答えによって構成されている。とくに第二部の生活篇は伝統的信仰問答の枠組みを踏まえて三要件(使徒信条、十戒、主の祈り)を土台としており、そこに日本キリスト教会の教会論の独自性がよく表されている。

装丁はじつに斬新である。Catechismから「CATS」

第四次産業革命、ソサエティ5.0、シンギュラリティ、スマートシティといった言葉が頭上を飛び交う。9・11、3・11は悲劇と苦悩と傷跡を表す数字となった。世界は共存と分断の激しい振幅のなかに置かれている。その最中に新型コロナによるパンデミックが起こった。人々の生活や経済は一変し、教会の礼拝も教育のかたちも中断や変容を余儀なくされた。不安や虚無が世界を覆い、多くの者が心傷ついている。確かさや信じてきたものが瓦解し、寄り添いたくても会うことができず、感染リスクが交差する。問うことも答えることも儘ならない。だからこそ、いま、どのような信仰を告白し、どのように問答するかが問われている。カテキズム(信仰問答)は信仰と生活を繋げるツールであり続けてきた。ツールはそれを用いる技工士が上手に用いることによってその機能や特徴を十分に発揮させ、活

との愛称?をつけ、猫のイラスト、写真、絵画が各ページにふんだんに使われている。内容の重厚さとは裏腹に、まづほどの問答からでもめくって読み始めてほしいという意図が随所に見られる。すべての問答には典拠となる聖書箇所が付され、漢字にはすべてルビが振られている。ビジュアル版とだけあって、宗教学から現代アートまで所狭しと配置されているが、できればそれぞれの写真や絵画の題目や説明があるとより豊かな学びになるであろう。

伝統的には大信問答は教職・長老向け、小信問答は洗礼志願者教育や信徒教育に用いられる。このたび「大信問答」が出版されたが、「小信問答」もすでにあると聞く。こちらのビジュアル版も近い将来出版されることを期待したい。(いとう・さとる 青山学院大学教授)

(A5変形判・一四四頁・定価一九八〇円(税込)・一麦出版社)



キリスト教ビギナーズ

キリスト教から生きる意味を学ぶ

崔炳一
チェ・ビョンイル Choi Byung Il



初めて出会うキリスト教をわかりやすく伝える。絵画や写真を多数掲載したビジュアルなレイアウトで、見て楽しむ、記憶にも残る。

A5判
定価 990 [本体 900 +税] 円
ISBN978-4-86325-132-8



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<https://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

香港の宗教者たちの 生の声を聞く

〈評者〉 山口陽一



香港の民主化運動と 信教の自由

松谷暉介編訳



中国返還から二三年、香港の「一国二制度」が急変している。二〇一四年の雨傘運動、二〇一九年には「逃亡犯条例」改正が市民の反対デモで撤回された。こうした民主化運動を制圧すべく、二〇二〇年六月、中国全人代は香港国家安全維持法を可決した。

序章では、本書の翻訳と編集を担った松谷暉介氏が、香港のキリスト教会の状況を丁寧な解説する。同氏は雨傘運動の時期に香港中文大学・崇基神学院で在外研究をした経験があり、そこで育まれた交流と彼らとの「祈りの約束」が本書を生み出した。

第1章は、二〇二〇年五月に結成された「香港牧師ネットワーク」による「香港2020福音宣言」の全文と四つの関係文書、同年七月の祈禱文「深淵から呼び求める七日間の祈り」である。楊建強牧師と王少勇牧師の対談「逃

亡犯条例」改正反対運動から「香港牧師ネットワーク」結成まで」では、「福音宣言」がローザンヌ誓約を継承して福音を解釈し、全包括的な信仰の筋道を描き出すことを願って起草されたことが語られ、その臨場感に引き込まれる。朝岡勝牧師は、「福音宣言」がバルメン宣言とローザンヌ誓約に共通する福音理解に立って祈りと行動を促す宣言であると解説する。

第2章は理論。香港政治の専門家である倉田徹教授が、「民主はないが、自由はある」香港の「信教の自由」が揺るがされている状況を解説し、香港のプロテスタントを代表する袁天佑牧師が、政治問題に直面して苦慮する香港の保守的教会の現状を開示する。中国キリスト教史の専門家である邢福増教授は、香港国家安全維持法の全体主義を「嘘の生」とし、これに「真実の生」を対峙させる。

を訴える。

平野克己牧師が「キリスト者として生きるとは、壁や国境によって閉ざされた小さな家ではなく、この世界全体を覆う大きな家に生きることなのです」と推薦の言葉を寄せているように、香港における信仰の覚醒に世界の教会が注目し、祈りを合わせている。日本の教会は、政治の分野において、抵抗権（信仰的不服従）を含むディアコニアを学ばされる。また教会の若者たちにとって、「バルメン宣言」と「ローザンヌ誓約」を継承する「香港2020福音宣言」が一つの道しるべとなることを願う。

(やまぐち・よういち) 東京基督教大学学長

(A5判・一九二頁・定価一九八〇円(税込)・教文館)

ヨベルの新刊案内

柳沼時影

「福音の種を蒔くすべての人々へ」

へボン先生との対話

反響の最新刊!

170年の時を超え、へボン先生を横浜にお招きし、語り明かす。今の日本をへボン先生なら、何と語られるだろうか。「ひとを、たましいを、使命を、教会を、日本を」、中実を織り交ぜながら、ふたりのキリスト者が語り明かした小説。

四六判・三二二頁・一八七〇円

黒川知文

文学博士(東京大学) / 中央学院大学教授

マックス・ヴェーバーの 生涯と学問

「学問は神からの使命である」と信じ、宗教史研究に生涯をかけてきた一研究者の書き下ろし論考。

四六判・二九六頁・四六判・本一八八〇円

山口衣子

日本福音キリスト教会連合
八幡キリスト教会牧師夫人

私のハットフィールド

人生は儚し、祈りをもって備えよ。夫の留学先での経験を、たましいの故郷になった小さな町の日々を回想する。 46判・152頁・1,430円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

教会共同体の信仰の核心を再確認するための情熱的な思索

〈評者〉阿部仲麻呂

キリスト教

本質と歴史

H. キュンク
福田誠二(訳)

Das Christentum
Wesen und Geschichte
Hans Küng

教文館

キリスト教

本質と歴史

H・キュンク著

福田誠二訳



一九二八年スイス生まれのハンス・キュンクはローマ・カトリック教会の神学者として第二バチカン公会議（一九六二―六五年）の際に教義神学上の様々な参考意見を述べ、活躍した。その後はドイツの諸大学で長らく神学の教鞭を執ると同時に哲学の分野でも新たな地球倫理の構想を提案するとともに『ユダヤ教』・『キリスト教』・『イスラム教』という三大信仰体系の総括的な三部作を完成させた。さらに中国や日本を始めとする東アジア圏の諸思想や諸宗教の研究も手がけ、親日家である。キュンクは数多くの優秀な研究者を育てるとともに市民講座などでも市井の教養人を励ます鷹揚なる人格者として人気を博した。人類愛をにじませるキュンクは幅広く開かれた地球全体規模の思想家として後世に名を残すことだろう。

本書はキリスト教の本質としてのイエス・キリストの活

二十世紀以降の第六の枠組みは「同時代的―エキュメニズム的パラダイム（ポストモダン）」とされている。キュンクは教会制度が各時代の政治や経済や文化などの社会状況との折衝を経て形を成す様子にもとづいて六つの段階を編み出した。ということは、彼は教会論の視点で歴史状況を区分したことが明らかである。その昔、若きキュンクがドイツ学術界に登場したときの最初の関心は「教会とは何か」だったが、その問題設定は奇しくも円熟期の思索においても連続しており、重厚で浩瀚な思想体系の土台となった。こうして、キュンクが若い頃から研究上の核心を正鵠に射抜いて理解し尽くしていたことが、今にして証明されたこととなる。まさに天性の学者だ。

キリストを信じる者の共同体としての一世紀の教会は歴史上特異な新しさを備えていたが、その尊い礎は六つの枠組みを経た今日においても変質することなく有効であることを本書が明確にあかししている点が最も秀逸な成果と

動がいかにして地球全体に拡大して諸地域の人びとによって受け継がれてきたのかをまとめているので、おのずと福音宣教の軌跡の歴史学的な解釈となっている。その際、キュンクは科学哲学者トマス・クーンのパラダイム論（自然科学的な法則の発見による世界認識の仕方の変遷を扱う際の各枠組みの進展を描く理論）を援用しており、教会の組織体制の時代ごとの枠組みを六つに区分した。一世紀を扱う第一の枠組みは「原始キリスト教的―黙示的パラダイム」であり、二世紀から七世紀を扱う第二の枠組みは「古代教會的―ヘレニズム的パラダイム」、十一世紀から十五世紀を扱う第三の枠組みは「中世的―ローマ・カトリック的パラダイム」、十六世紀を扱う第四の枠組みは「宗教改革的―プロテスタント的パラダイム」、十七世紀から十九世紀を扱う第五の枠組みは「啓蒙主義的―近代的パラダイム」、

なっている。キリストは今日も生きており、私たちを丁寧に大切に遇してくれる、という核心をキリスト者の教会共同体こそが実感しており、いのちがけで伝達しようとしてもがいている点に歴史上の価値が見出せる。この、いのちがけで信頼出来る相手と出会うという仕儀こそは、キリスト教の本質であり、そのことを各時代ごとに新鮮に再確認しようとするキリスト者の苦闘が六つの枠組みの生成につながった。

キリスト者にとっては自己理解のため、他の者にとっては必死に生きる人間の営みの迫力を得て人生と真摯に取り組む指南を得るため、本書は有用である。相手にいのちを捧げ尽くして、ともに生きんとするキリストの愛情深き悲願を受け継いだからこそ、キュンクは今日もまた思索を続行させる。その情熱に賛同し、心からの敬意を表そう。

（あべ・なまこまろ＝東京カトリック神学院教授・日本宣教会常任理事）
（A5判・一二五〇頁・定価九六八〇円（税込）・教文館）

起き上がる力と 感謝の気持ちを与える

〈評者〉**角田芳子**



起き上がり小法師
「朗読CD付き」
Solaie (ソライ) 作
いしごくみこ絵



この素敵な出会いを与えてくれたソラさん作の絵本を何度も読んでみた。最初は、子どもたちに読み聞かせをしている気持ちで音読してみた。回数を重ねるごとに、登場人物の心模様が違って伝わる不思議な魅力が、絵本から生き生きと伝わって来た。そして、最後にソラさん自身が読まれている巻末についているCDを聞いた。中田衛樹さんがバックグラウンドミュージックで言葉に厚みを加えておられ、小法師が絵本から抜け出して微笑んでいるようだった。自転車事故に遭い頭部外傷を受けたソラさんが、生死の間をさまよっているが、そこから目が覚めて気づいた。話そうとしたが、言葉にならなかった、手を動かそうとしているのに動かない現実。周囲のお父さん、お母さんが泣いているのに気づきただならぬことになったのと焦っただろう。しかし、こんな優しい家族が側にいてくれてよかった！

たお母さんのあのコトバ、「生きていくだけで、十分」。こんな状況になると、とかく人は絶望し心を閉ざしがちである。その心を開くのは、容易なことではない。筆者も何度か教育現場でそのことの難しさをひしひしと感じてきた。しかし自分に注がれている愛を感じた時、少しずつ、少しずつ心は耕され柔らかくなっていく。そこに蒔かれた種は、いつの間にか芽を出し、光に向かって成長していくのである。ソラさんは、何と素晴らしいことに、「できること探し」を始めたというのである。きつとできることは日に日に増えて、数えきれないほどになったのではなからうか。ベットの側にあった「起き上がり小法師」が応援しているように感じた。「なんと 転んでも 必ず 起き上がる」七転び八起きの精神である。「起き上がり小法師」が難しい顔

お母さんは毎日、体をさすってくれた「起き上がれますように」「ちゃんと手が動きますように」「立つことができますように」：温かなお母さんの手のぬくもりは、ソラさんに生きていこうとする力を与えたことだろう。やがて「神様、車いすの生活でもいいですから 起き上がるようにしてください」という祈りへとつながっていく。この場面のいしごくみこさんの絵が何とも言えず可愛らしい！ 昨日会った人たちを忘れてしまう、思い出せないことがある中でもお母さんはすこかった。マイナスの言葉を口にしなかった。手足が少しだけ動かせたソラさんに「生きていくだけで 十分」「感謝だね」と言葉をかける。このコトバが、その後の彼女の支えになり、心にしみ込んでいく。今まで出来ていたことが、どう頑張っても出来ない！ どんなにイライラし、怒りもわいてきただろう。そんな時支えとなっ

をして、ただ見ているだけでなくにっこり笑っている。ソラさんを応援して笑ってくれている。ここまで導いてくれた「たくさんの人に、ありがとう 新しい私に こんにちは」という生きているだけで満足であるという明るい未来を感じさせ、絵本は終わりになる。

この本は、育ちゆく子どもからお年寄りまでに大切なことを教えてくれている。作者はそんなことを意図していたわけではないと思うが、読む人の誰の心にも、迷いや暗闇がその年代なりにあるが、その立場ごとに何かを教えてくれている。そして、英訳がついているこの絵本は、日本だけでなく今後きつと世界中で読まれ、読む人々に起き上がる力と感謝の気持ちを与えるだろう。

(つのだ・よしこ) 浦和バプテスト教会員、元聖学院小学校教頭
(21×21cm・三三頁・定価一六五〇円(税込)・ヨベル)

好評既刊

病の神学

ジョン・ロッド・ラルシュ 著
二階宗人 訳



病気は人間であることと条件と関係づけられている——**教父の神学**に依拠しつつ、病の意味を問う。病気とその痛みを癒すこと、さらに人間の霊的な全体的救いをキリスト教の視点から展望する。

A5判上製・定価3520円

教友社

275-0017 習志野市藤崎 6-15-14
TEL047-403-4818 FAX047-403-4819
<http://www.kyoyusha.com>

今日的に神学の 枠組を問い直す

〈評者〉藤本 満



平和をつくり出す 神の宣教

現場から問われる神学
西岡義行責任編集



東京ミッション研究所（T.M.R.I.）は、一九八九年、ロバート・リー氏を筆頭に、東京聖書学院、日本メノナイト兄弟センター、OMFの支援によって設立された。リー氏はハーバード大学で「日本史における宗教的自我の形成」で博士論文を書かれたほど、日本の宗教と歴史、宣教のあり方に造詣が深い神学者であった。日本国が希求する「平和」を「神の平和」という大きな視点から論じることのできるメノナイト宣教師であった。本書は、T.M.R.I.設立三〇年を経て、天に帰られたリー氏の志を受け継ぐ研究者たちによって執筆された論集である。

諸論文に一貫した筋道を記すことで書評としたい。T.M.R.I.が日本の教会全般に果たした特筆すべき貢献は、D.ボツシュ『宣教のパラダイム転換』の翻訳出版であった。この書は、西欧的帝国主義・勝利主義の息がかかった宣教

論を批判的に検討し、宣教とは、ご自身の民を創造しようとする歴史に働きかける「神の宣教」（ミシオ・デイ）である、と論じた大著である。翻訳のために多くの研究者が集結し、T.M.R.I.の裾野は拡大した。

本書の冠的論文である第一章で、リー氏は聖書や神学的伝統を理解しようとするとき、それが「過去において何を意味にしたのか」、それが「今日において、日本の文化脈で何を意味するのか」を区別し、双方を批判的に検討することの重要性を力説している。宣教は、西欧キリスト教から受け継いだものを無批判に押しつけることではない。また宣教を受け取った側も、自らの文化的土壌・日本人論を批判的に検討せずして、宣教のさらなる広がりを目指すことはできない。過去から今日へと、パラダイム転換、脱構築、再構築という用語が何度も出てくる。

第二章の「平和神学の基礎としての聖書学的枠組」（宮崎 登）は、メノナイト派の真骨頂である平和神学の枠組を紐解く。旧約聖書では、王政はシャロームを用いて、格差社会を安定維持しようとし、それに対抗して、預言者は社会正義を求める真のシャロームを説いた。新約聖書では、ローマ帝国の平和に、神の国における終末論的平和が切り込んでいく。戦中のパックス・ジャポニカ（大東亜共栄圏）、戦後のパックス・アメリカーナ、帝国主義というパラダイムの中に平和が取り込まれてしまう。教会が背負う倫理的な課題はなんであるのかを問う。

第三章「修復的贖罪論の可能性を探る」（河野克也）は、十字架を刑罰代償的に理解する応報的贖罪論のパラダイムを、近年のパウロ研究に基づいて見直し、新たに「修復的贖罪論」を提唱している。短くも、凝縮された、秀逸な論考である。

第四章「グレン・スタッセンの『受肉の弟子の道』の地位と展望」（中島光成）は、特定のイデオロギーに基づいたイエスではなく、神の性質の顕れとして受肉された御子イエスを、歴史に根ざし、現実的に重く受け止める「受肉の弟子の道」を現代の日本の教会のために紹介している。

第五章「ハワーワスの『近代的自己』批判」（中島真実）

は、カントの、理性的によって近代的自己を確立しようとする試みが、人間の宗教性を道徳世界に封じ込めてしまったことを指摘する。その上で、ハワーワスによる、キリストの物語に取り込まれ、聖化に向かい旅する自己を物語的に捉えるパラダイムを紹介している。興味深いのは、ホーリネス系の自己がカントのそれに近いと指摘していることであった。

第六章「終末的苦難のなかでの世界宣教とイエスの弟子形成」（横田法路）は、近年のさまざまな災害にあって、イエスの弟子共同体はなんであり、どのような役割を担っているのかを具体的に解説、まさに現場からの神学である。最終章「被災地から問われる包括的福音——ローザンヌ運動の視点から」の著者は、本書全体の編集者・西岡義行氏である。氏は宣教学のパラダイム転換を図ったフラー神学校で宣教学の博士号を取得し、ベストのタイミングで帰国され、それ以来、リー氏の志を具現するためにT.M.R.I.の働きに献身的な労苦を重ねてこられたことを付記して、拙評を閉じる。

（ふじもと・みつる）インマヌエル高津教会牧師

（A5判・二六四頁・定価一九八〇円（税込）・ヨベル）

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunsho.or.jp>

2020年9月号

巻頭エッセイ：書物を持って来てください 岩村義雄		
特集：「疫病と歴史」を学び直すならこの三冊！ 村上陽一郎		
アウグスティヌス著作集第19/1 詩編注解(3)	アウグスティヌス著、教文館	山田 望
正義と法	W.フーパー著、新教出版社	千葉 眞
キリスト教神学とは何か	李信建著、ヨベル	齋藤五十三
信仰生活ガイド 主の祈り	林牧人編、日本キリスト教団出版局	篠田真紀子
アブラハムと神さまと星空と 創世記・上	大頭眞一著、ヨベル	松島 雄一
わたしたちの信仰	金子晴勇著、ヨベル	原田 博充

2020年10月号

巻頭エッセイ：書物に魅せられて 吉川直美		
特集：「臨床神学」を学ぶにはこの三冊！ 鳥居雅志		
キリストとローマ皇帝たち	E.シュタウファー著、教文館	鳥 創 平
抵抗権と人権の思想史	森島豊著、教文館	芦名定道
信仰と人生	任哲完著、日本キリスト教団出版局	きどのりこ
現代のパベルの塔	新教出版社編集部編、新教出版社	福嶋 揚
キリスト教史下巻 増補新版	フスト・ゴンサレス著、新教出版社	柳下 明子
恵みによって	ジャン・カルヴァン著、キリスト新聞社	井ノ川 勝
実存の神学	フリッツ・ブーリ著、ヨベル	笠井 恵二

2020年11月号

巻頭エッセイ：「いつか来る二回目」のために 北村裕樹		
特集：BLM (Black Lives Matter) を学ぶためのこの三冊！ 山下壮起		
「死海文書」物語	J. J. コリンズ著、教文館	上 村 静
神さまと共に歩む道	日本キリスト改革派教会大会教育委員会著、 教文館	藤 本 満
3分間のグッドニュース [預言]	鎌野善三著、ヨベル	梅 津 順 一
今、よみがえる創世記の世界	小山清孝著、ヨベル	中 澤 啓 介
見えないものに目を注いで	山形謙二著、福音社	稲 田 豊
詩篇の思想と信仰Ⅴ	月本昭男著、新教出版社	加藤久美子
註解 ローマの信徒への手紙	C. クランフィールド著、日本キリスト教団出版局	浅野 淳博
次世代への提言！	日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター編、新教出版社	松 本 敏 之

2020年6月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：言は神であった 野村 信		
特集：日本における宣教・伝道を学ぶにはこの三冊！ 石田 学		
エッセイ：「藤井武記念講演集」Ⅰ・Ⅱを上梓して 佐藤全弘		
苦難と救済	野村信他編、教文館	住 谷 眞
奪われる子どもたち	富坂キリスト教センター編、教文館	大 嶋 果 織
続・社会学者、聖書を読む	高橋由典著、教文館	川中子義勝
教会の一致と聖さ	袴田康裕著、いのちのことば社	藤 本 満
押田成人著作選集 1	宮本久雄他編、日本キリスト教団出版局	小 暮 康 久
藤井武記念講演集Ⅰ、Ⅱ	佐藤全弘著、ヨベル	内 坂 晃
アレティア 伝道する説教をしよう	日本キリスト教団出版局編	齋 藤 眞 行
ヨシヤの改革	D. T. ステュアート他著、博英社	焼山満里子
教会のマネジメント	島田恒他著、キリスト新聞社	宇田川元一
神さまが見守る子どもの成長	石丸昌彦著、日本キリスト教団出版局	小 島 誠 志
聖書と現代	関西学院大学神学部編、キリスト新聞社	山 口 希 生

2020年7月号

巻頭エッセイ：本と旅して 松村さおり		
特集：「ヴィジュアル表現にみるキリスト教」に触れるならこの三冊！ 三輪義也		
あなたとわたしの愛する子	片柳弘史著、教文館	久米小百合
平和憲法とともに	稲正樹他編、新教出版社	笹川紀勝
誰にも言わないと言ったけれど	J. H. コーン著、新教出版社	山下 壮 起
イエスを見つめながら	カンバーランド長老キリスト教会高座教会編、 新教出版社	戒 能 信 生
現代神学の冒険	芦名定道著、新教出版社	小 原 克 博
キリスト教史の学び(上)	越川弘英著、キリスト新聞社	落 合 建 仁
「新」キリスト教入門(2)	新免貢著、燦葉出版社	岩 村 義 雄
創造か進化か	デニス・アレクサンダー著、ヨベル	関 野 祐 二
母子の情愛	西谷幸介著、ヨベル	間 瀬 啓 允
知られなかった信仰者たち	川口葉子他著、いのちのことば社	辻 直 人
今日のパン、明日の糧	H. ナウエン著、日本キリスト教団出版局	吉 川 直 美

2020年8月号

巻頭エッセイ：キリスト教とどうかかわるか 岡田 聡		
特集：「キリスト教教育」を学び直すにはこの三冊！ 森田美千代		
見出された命	小島誠志著、教文館	渡 辺 正 男
古代イスラエル宗教史	M. ティリー他著、教文館	月 本 昭 男
ヤバいぜ！ 聖書	明治学院テキスト作成委員会編、新教出版社	西 原 廉 太
逆風に抗して	ドロテー・ゼレ著、新教出版社	山 本 泰 生
今、礼拝を考える [新装増補版]	越川弘英著、キリスト新聞社	北 村 裕 樹
宇宙の筋目に沿って	S. ハワーワズ著、ヨベル	藤 原 淳 賀
JKに語る！ 新約聖書の女性たち	久野牧著、一麦出版社	矢 澤 励 太

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenritkan_syoten_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-36 穀粒センター・イマフ	022-223-2736	共用		fcwkwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新富2-2 千葉カリスチャペルビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tuigite.ne.jp/~yokohamets/mbs.html	sksch@mmva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.la.cococan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kyotan/	kyotan@mtbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三層ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkithan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geoties.jp/matsuyama_1007/mbs.html	sksch@doki.doki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kcbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■日本キリスト教団出版局

オリゲネスサムエル記上説教

小高毅／堀江知己訳

古代教会最大の神学者オリゲネスの、サムエル記上による説教——厳格な説教者オリゲネスの姿を浮かび上がらせる第1説教、一見異教的なエン・ドルの口寄せの記述をキリストの陰府降りと重ね説き明かす第2説教——と、サムエル記上に関する断片を先訳、詳細な背景の解説を付す。

A5判・上製・144頁・定価2640円

「ここが変わった!」聖書協会共同訳《新約編》

浅野淳博／伊東寿泰／須藤伊知郎
辻学／中野実／廣石望著

新翻訳聖書「聖書協会共同訳」は従来の「新共同訳」とどう変わったのか。近年の新約学の研究成果を反映し、改められた訳語、刷新された神学理解、なお残る議論の数々を、同時期刊行の「新改訳2017」とも比較しながら、新約学界を牽引する執筆陣が解説。

四六判・128頁・定価1320円

INFORMATION

近刊情報

■新教出版社

組織神学 第三巻

ヴォルフハルト・パネンベルク著

佐々木勝彦訳

主著の最終巻は終末論的な賜物としての霊に関する教理を、以下の表題に沿って展開する。「第12章 霊の注ぎ、神の国、そして教会」、「第13章 メシアの教団と個人」、「第14章 選びと歴史」、「第15章 神の国における創造の完成」。

A5判・888頁・予価13200円

■教文館

教会実務を神学する

——事務・管理・運営の手引き

山崎龍一著

牧師の待遇や会計実務の考え方、アーカイブスの重要性、教会の宗教学人格取得の意味など、牧師・役員になったときに必ず知っておくべき事柄を分かりやすく解説。牧師と信徒が共に教会を形成するために必携の書!

四六判・224頁・定価1980円

福音と世界 2021年5月号

特集 スピリチュアリティ―社会との交渉
寄稿者 島園進、橋迫瑞穂、堀江宗正
櫻村愛子、安藤礼二、栗原康
神の約束の中に生きるための「リテラシー公正」藤原佐和子 / 好評連載 間隙を思考する 非同時代性のために (田嶋英明) / 古代イスラエル文学史序説 (勝村弘也) / 福音のフラグメント (有住航) / 霊性のエゴジ―あるいは「マニヤリア」(村澤真保呂) / 「Sea a Little Prayer」開かれる世界 (栗田隆子) はか

A5判・定価660円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。
新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com



編集室から

東日本大震災から一〇年の節目を迎えた。当時、私は高校三年生、卒業式の前々日だった。山陰地方の全寮制の学校にいたため揺れを感じなかったが、皆でテレビ画面に釘付けになったのを覚えている。

先日、被災者支援に尽力したある牧師が、説教で当時のことを語っていた。その中の、石巻の被災者が語った言葉に胸を打たれた。「今回の津波ですべてを失いました。でも、今日はこのことばで生きています」。生きていればきつと 笑える時が来る。そう書かれた絵手紙を握り締め、牧師に語ったそうだ。

今は様々な言葉に囲まれている時代だ。街中に張り出された広告の文字、スマートフォンで見る数々の記事や、誰

予告

本のひろば
2021年6月号

本・批評と紹介

國友淑弘著『黒人霊歌の即興性』、ローワン・ウィリアムズ著『キリスト者として生きる』、加藤常昭著『使徒言行録講話』、金子晴勇著『キリスト教思想史の諸時代Ⅱ』、村椿嘉信著『荒地地に咲く花』他

かの投稿、コメント……。購買意欲をそそる言葉、危機感を煽る言葉、人生のためになりそうな言葉。ひよつとしたら、現実の人間と話している時間よりも、こういった言葉に触れている時間の方が長いかもしれない。そんな生活をしていると、「この言葉で生きています」なんて、考えることはまずないだろう。しかし人は、「最後は言葉で生きる」。この牧師の体験は、そのことを教えてくれる。

わたしたちが世に送り出してきた言葉はどうだろうか。日常生活においても人を生かす言葉を語ってきただろうか。光は闇の中で輝いている。広がる闇を感じる中だからこそ、輝く言葉があることを信じて励みたい。まだまだ先になるかもしれないが、コロナが収まったときには、教会のご高齢の方々に、「あなたを生かす言葉はなんですか」と伺ってみよう。

(桑島)

逢坂元吉郎

鶴沼裕子著 (うぬまひろこ氏は聖学院大学名誉教授)

日本キリスト教史上に異彩を放ちつつも顧みられることが少なかった牧師・神学者の生涯と思想の全貌を、長年の研究を踏まえて書き下ろした意欲作。



4月23日

神の言葉と契約

出エジプト記19章―24章の研究

大野恵正著 (おおのよしまさ氏は活水女子大学名誉教授)

モーセ五書の中心問題を記す文書の成立を文献学的に解明した労作。

3月19日

ヒップホップ・アナムネーシス

ラップミュージックの救済 山下壮起・二本信編著

気鋭の執筆陣の論考・小説や、BLM運動と共闘する黒人牧師の説教、日本で活躍する6名のラッパーのインタビューなどを収録した類を見ないアンソロジー。

2月25日

ジーザス・イン・デイズニーランド

ポストモダンの宗教、消費主義、テクノロジー

デイヴィッド・ライアン著 / 大畑深、小泉空、芳賀達彦、渡辺翔平訳 監視社会論の泰斗が、デイズニーランドに象徴されるポストモダン社会の宗教の可能性を問う。

1月25日

創世記Ⅱ カルヴァン旧約聖書註解

ジャン・カルヴァン著 / 堀江知己訳 ◆A5判・並製・定価4950円 / 上製函入・定価6600円

1月25日

創世記Ⅰ (オンデマンド版)

渡辺信夫訳 ◆A5判・並製・定価5060円

日韓キリスト教関係史資料Ⅲ

1945—2010

富坂キリスト教センター編

日韓の貴重な資料400点以上を収録。日本敗戦から日韓基本条約締結までの交流を第Ⅰ部、韓国民主化闘争と日韓連帯の動きを第Ⅱ部、戦後補償問題を含む日韓の交わりと統一への模索を第Ⅲ部とする。とりわけ民主化運動資料は他の追随を許さぬ充実。

記憶を未来へ

◆A5判・定価16500円



日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ https://bp-uccj.jp 《価格10%税込》

苦難と自由の本質に挑む、並木旧約学の集大成！

ヨブ記注解

並木浩一



ヨブ記注解



並木浩一
NAIKI Hiroichi

正しい人がなぜ苦しむのか。神はなぜ悪を許容するのか。ヨブ記は人間が自由を持つがゆえの苦悩を徹底して描く。思想世界に深く切り込み、ヨブと共に苦難の意味と人間の自由を問い直す勇気を与えられる注解書。
著者のヨブ記研究の集大成、ついに刊行！

ご予約
受付中
!!!

2021年6月15日刊行予定

◆A5判 上製・予498頁・定価6,600円

3世紀最大のキリスト教神学者による、旧約聖書の説き明かし

オリゲネス サムエル記上説教

2021年4月23日刊行予定

小高 毅 / 堀江知己 翻訳

古代教会初の教義学者オリゲネスの、サムエル記上による説教——厳格な説教者オリゲネスの姿を浮かび上がらせる第1説教、一見異教的なエン・ドルの口寄せの記述をキリストの陰府降りと重ね説き明かす第2説教——と断片を完訳、詳細な背景の解説を付す。 ◆A5判 上製・142頁・定価2,640円

オリゲネス
サムエル記上説教
Origenis Homilia



小高 毅・堀江知己

日本キリスト教団出版局

好評発売中 『オリゲネス イザヤ書説教』 関川泰寛 監修 堀江知己 翻訳・解説 定価2,750円

発行所 〒163-0814 東京都新宿区新小川町九一ー一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3311-6510 振替00170-511679
発行人 金子和人 編集人 白田浩一 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教出版株式会社 電話03-3311-5670

定価七八円(税抜七一円) (¥63円)
一年分一三〇〇円(送料共)